

聖愛

一月号

原町聖愛保育園

二〇〇七年一月四日 発行

登園してきた子どもたちは、早速双六やカルタなど、正月遊びを楽しんでいました。また、お正月の楽しかった話も聞かれ、家族で楽しく過ごした様子が伺えました。

今年も子どもたちの健やかな成長と幸せを願い、職員一同気持ちを新たにしてい保育に取り組んでまいります。

みんなで囲んで楽しむ

明けましておめでとうございます。ご家族の皆様揃ってお健やかに、新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

正月休みは何をしましたか。カルタとり、双六遊び、福笑い、お手玉、羽根つき、凧揚げ、コマ回し…。これら正月遊びは昨今見かけなくなりました。

幼児には少し難しいお手玉などは、今はほとんど遊ばれていません。隔世伝承で祖母から孫へ受け継がれて遊ばれていたもので、遊び方だけでなく裁縫も習い、おばあちゃんの子どもの時代の思い出まで語り継がれていました。

年齢を問わない福笑い、年少クラスでも容易に理解し、目、鼻、口、眉などの名称を覚えながら、理屈抜きで笑って楽しめるようです。勝敗が分る年齢になると、そのような遊びを好み、勝負に勝って喜び、負けると悔しがって、回りの友達を気にしながら次こそは自分、と意気込みが違います。

保護者の方々も子どもの頃には、家族で膝を突き合わせ、頭を寄せ合ってカルタや双六を囲み、ご褒美やメンバーの能力に合ったルールを決めたり、時には、負けが続いて機嫌を損ねた相手を気遣って、新ルールを提案したりして、やり続ける工夫をしながら楽しませましたか。こうして、遊びながらも相手の気持ちを察して、自分の言動を考え、変化する状況にあわせて、心情的には複雑に対応をして遊んでいました。


内容が簡単なものは誰でもその輪に加わって遊ぶことが出来、メンバーの意見を反映させながら、自分たちのペースで繰り返し楽しめます。その過程で気持ちも共有できていき、結果それは遊びに興ずるだけでなく、人と接するときの大事なことも含まれた体験を、同時にすることになります。

コンピューターゲームが、子どもたちや家族の遊びを独占しつつあります。家族で一つの遊びを囲んで楽しむよさを、見直しましょう。園長 遠藤美保子



1月の主題 「あたたかいね」(年少) 「かかわって」(ファミリー)

暗唱聖句「どんなことにも感謝しなさい。」 テサロニケ15章16節

クラス	保育目標	活動	保育者の配慮
てんし 0歳児	・体全体を使って保育者とともに遊ぶ。	・歩く、かけっこ(目的地に向かって) ・追いかけて(しっぽをつけて) ・カードあそび(絵合わせ) ・トンネルあそび(くぐる、もぐる) ・タオルあそび(ゆらゆら)	・目的のところまで歩くことを促し、子どもたちが動こうとする思いが出るよう、設定を工夫しながら働きかける。 ・くぐったり、登ったり、遊びの中で様々な動きが出来るよう室内の環境を作り、触れ合いながら楽しめるようにする。
つぼみ 1歳児	・寒さに負けず、戸外で体を動かして遊ぶことを楽しむ。	・ごっこあそび(おおかみと7匹のこやぎ) ・かくれんぼ かごめかごめ ・散歩(最後まで歩く) ・坂の上り下り 目的地まで歩く ・砂利道を歩く ・ハサミ、のりを使って(家作り、お面作り)	・天候に配慮しながら戸外で体を動かして遊ぶようにする。 ・空の青さ、風の冷たさ、暖かさなど、子どもたちの体感したことを共感し、ことばで表現することを代弁してやる。 ・衣類のたたみ方、ボタンの掛け外しに興味を示していることを大切に、基本的な生活習慣が身に付けられるよう、個別の関わりを丁寧にする。
はな 2歳児	・保育者や友だちと一緒に体を十分に動かす。 ・お正月遊びを知る。	・おしくらまんじゅう かごめかごめ ・たこ作り、たこ揚げ ・コマ回し ポール遊び 	・体を動かして遊べるように、保育者が一緒に行かない、一人ひとりの興味を引き出しながら、遊びの楽しさを共有する。 ・お正月遊びを繰り返して遊んだり、自分で作ったりして、興味を持って楽しみ、面白さを味わえるようにする。
ファミリークラス なみ 3歳児 ほし 4歳児 つき 5歳児	・日々の生活や関わりの中で、友だちと十分に関わりをもつ。	《室内》 ・伝承遊び(なみ、ほし、つき) ※1 カルタ、双六、トランプ、福笑い お手玉 ・双六や福笑いを作る(ほし、つき) ※3 ・版画(つき) ※3 ・一人暮らしのお年寄りのお宅訪問のプレゼント作り(つき)	・遊び方を知り、実際自分で試してみることが出来るように誘い掛ける。 ※1 ・遊びの中で子どもたちが十分に関われるよう、年上児と遊ぶ機会を増やし、遊んでいる様子を見ながら自分もやってみようという気持ちをもてるようにする。 ※2
	・色々な遊びに興味を持ち、一人ひとりが自分の力を発揮して、活動に取り組む。	《戸外》 ・ルールのある集団遊び ※2 だるまさんがころんだ、花いちもんめ ・長縄跳び 大波、小波、郵便屋さんの落とし物 ・短縄跳び 前跳び、後ろ跳び	・生活や遊びの場面で数量、形、文字などに関心を持ち、様々な場面で使って遊べるよう援助する。 ※1 ・遊びの様子をじっくり見たり、教えてもらう機会を増やし、自主的にやってみようという思いを引き出すようにする。 ※2
	・友だち同士で思いを共有し、遊びを発展させたり、作り出したりして楽しむ。		・集団遊びに積極的に誘い、一緒に遊ぶ楽しさを味わえるようにする。 ※2 ・昔の遊びの体験を通して、自分たちで作ってあそぶ喜びを味わえるようにする。また、文字や数に関心を持たせ、自分に関わること(住所や電話番号)など覚えるきっかけを作る。 ※3



< 1月の予定 >

日	園の予定	職員の予定
4 (木)	保育開始	
5 (金)		職員会議
8 (月)	成人の日のため休園	
9 (火)		聖書研究
10 (水)	ポップコーン	マネージャー会議
11 (木)	小人さんの音楽会	構造化会議
12 (金)	しゃりん梅訪問	
13 (土)	卒園児交流 (伝承遊び)	
16 (火)	合同礼拝	聖書研究
17 (水)	白鳥見学 子育てサークル	ケース会議
18 (木)	ポップコーン	
23 (火)		園内研修
24 (水)	子育てサークル 避難訓練 (図上訓練)	給食会議
25 (木)	小人さんの音楽会	未熟児支援
29 (月)	お弁当の日	
31 (水)	しゃりん梅訪問	

伝承遊び 1月13日(土) つき・ほし組、小学3・4年生
時間 午前9時～11時



すごろく、けん玉、こま回し、カルタなど、昔から伝わっている遊びを、小学生に教えてもらいながら楽しく遊びます。

これに伴って、つき組は近所のお年寄りの方々のお宅へ訪問して、いろいろなお正月遊びを教してもらったり、子どもの頃遊んだときのお話も聞かせてもらうことも計画しています。

寒さに負けない元気な体を作ろう！

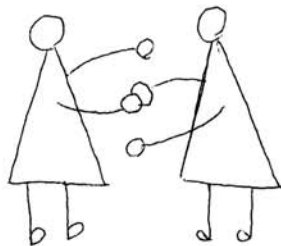
寒くなって着衣が増え、マフラーや帽子など身に付けるものも多くなって、遊ぶにも体を動かしにくそうな子が多くなりました。この時季に外で遊ぶことは、体を動かして体が温まるだけではなく、体の免疫力の高まりにつながり、病気にもかかりにくくなります。(いつも暖房の効いた暖かい環境の中で生活していると、寒さに負けないような体温維持をする必要がなくなり、免疫力も低下していくと考えられています。)

近年は外に出て遊ぶよりも、室内で、体を動かさずに過ごすことが増えていますが、保育園では出来るだけ外気に触れて遊ぶようにしています。

<体の温まる簡単な遊び>

○お尻たたきゲーム

片手をつなぎ、もう片手で相手のお尻を叩くゲームです。単純ですが、叩かれないように動いているといつの間にか暖かくなります。同じ要領でしっぽとりゲームも出来ます。



○なわとび

前に回したり後ろに回したり…。他にも、長縄ではみんなで何回跳ぶことができるか、一人で何回跳べるか競いあったりします。



前跳び



交差跳び

健やかな成長を願って・・・

昨年は、いじめによる自殺や、家庭内における虐待など、何の罪もない子どもたちが犠牲になる事件が数多く起こりました。子どもたちは、神様が与えてくださった唯一無二の大切な存在です。今年も、子どもたち一人ひとりが、健やかに成長することを喜び、願いながら毎日を大切に過ごしていきたいと思います。

白鳥見学 1月17日(水)

- 行き先：楯葉町 「白鳥の館」
- 対象児：つき、ほし組、子育てサークル



この世に生息している、様々な生命ある生き物は、大きさ、強さに関係なく、神様の与えてくださったかけがえのないものです。

今回は、渡り鳥でよく知られている「白鳥」を見学しにいき、その特性を知ったり、発見したりして、親しみをもちたいと思います。

・寒くなるのが予想されますので、必ず防寒着着用で、8時30分までに登園させてください。

・白鳥に餌をあげますので、餌になるもの(パンや米など)の持ち寄りにご協力をお願いします。



かかわって… ～今月の主題から～

今月のファミリークラスの主題は、「かかわって」。これは人間関係や、自分の興味を引かれるものへの関わりを豊かにしていくことです。



今月は、お正月を機に、伝承遊びを数多く経験するよい機会です。自分で作ったり試したりして、昔ながらの遊びを楽しむ予定です。

子どもたちには、「遊びこむ」経験と、おもしろいことを友だちと一緒に感じる事ができる、満足感と素晴らしさを感じ取って欲しいと願っています。

『他人から決められた課題ではなく、自分のしたいことを自由に満足するまで行なうことによって、次のようなことが育ちます。例えば、模索や工夫や推測や見通しをつけること等による思考力の育ちと、それらを楽しんでいる努力感、達成感、向上心等の育ち。また、手加減等の身体感覚や自分の感じる整合性や美しさ等、自分の感覚・感性を通して自分に対する信頼感を育てること等…。幼児期後半になると、子どもの知的要求はますます強くなりますが、それは単に物知りになるのではなく、知的要求を充たしながら、情緒的要求や更には自己信頼感をも育てる物を求めているのです。』
(参考文献：キリスト教保育1月号)

お知らせ

- 今月の午睡用タオル類の持ち帰り日は26日(金)になります。日光消毒、洗濯等をお願いします。

